

つながるトーク、移民を知ろう、移民と語ろう

第3回 難民、そのありのままの姿とは

2013年3,000人突破、2014年4,000人突破見込み。

これは日本の難民申請者の数字です。年々難民申請する外国籍者は増えています。申請する人には様々な背景があり、「難民問題」をひとくくりでまとめることは不可能です。日本の難民問題を理解するためには、国際情勢や地域情勢についての知識が不可欠であり、またそれと同時に日本の国内法、特に行政法、社会保障や労働法等についての深い知識が求められます。

しかし、実際にどのような人が日本で難民申請し、した先には何があるのか、ということ当事者の話を通じて、知り考える機会はあまり多くないのではないのでしょうか。

このような背景から、今回は二部構成でトークを行います。

第一部では多くの難民申請者と面会をしている筑波大学 CLOVER～難民と共に歩むユース団体～ に難民申請までの流れや收容されてしまった方との面会を通じて感じたことについてお話いただきます。

第二部では実際に難民の認定を受けた女性の方に、難民認定を受けた後での暮らしについてお話をいただきます。仕事、社会保障、出産、社会活動の中でぶつかった様々な壁についてお話をいただきます。

先進国日本で暮らす「難民」。彼らのありのままの姿について知り参加者と一緒に考えられる、そのような機会にできれば幸いです。奮ってご参加ください。

CLOVER～難民と共に歩むユース団体～

筑波大学公認団体。2009年10月29日設立。日本に逃れてきた難民が入国管理センターに收容され、不当な扱いを受けていることを問題視した浅野マミによって設立された。団体の理念は、東日本入国管理センターの難民申請者を含む被收容者の方々が、收容中や仮放免中に大きなストレスを抱えている問題を受け、彼らが未来への希望を持って生きられるよう寄り添うこと。被收容者のニーズへの対応、仮放免者との信頼関係の継続化、日本における難民問題の認知度向上のために活動を行う。主な活動内容は、東日本入国管理センターでの面会、辞書などの物品支援、日本語学習サポート、翻訳ボランティア、啓発イベントの企画運営など。被收容者と外の社会をつなぐため、東日本入国管理センターで面会を希望する一般の方への面会のコーディネートも行う。団体名の由来は Care&Love for Refugees (難民に気遣いと愛を) から。

マ・テンテン・ウーさん

ビルマ・パゴ管区生まれ。5人家族で平和に暮らしていたが、突然罪のないまま、父・母・本人が刑務所に入れられた。父は3回も捕まっている。1998年来日し、ビルマと日本のあまりの違いに衝撃を受け、自分の将来を考えるようになり民主化運動に携わる。2009年難民認定を受ける。日本での自身の出産、同国人女性の日本での現状を知り、支援活動に積極的に従事するようになる。現在はビルマ市民労働組合の女性リーダーとして、組合活動、民主化運動、女性の健康推進など、幅広い活動を行っている。

日時 2015年1月24日(土) 18:30～

*学習会后、講師を囲んで会場で懇親会を予定しています。

会場 在日本韓国 YMCA 3F

資料代 1,000円(大学院生以下500円)